

～ふるさと市浦はわれらの誇り～
金木高等学校市浦分校閉校式



閉校式の様子

11月4日、平成30年3月で閉校する青森県立金木高等学校市浦分校（藤澤重信校長）で、在校生9人をはじめ、卒業生や地域住民ら約150名が出席し、閉校式が行われました。昭和28年に開校して以来、64年間と長きにわたり市浦地域の教育を担い、これまで400名におよぶ卒業生を輩出し、県内外で活躍する人材が本校から羽ばたきました。式典では、生徒会長の竹ヶ原藍花さんが「たくさんの人と巡り会えた学校生活は、今までの人生の中で一番かけがえのない思い出になりました」と生徒を代表して挨拶し、最後に出席者全員で市浦分校賛歌、相内分校校歌を斉唱し、地域に根ざした学びやとの別れを惜しみました。

十三湖水戸口突堤選奨土木遺産記念プレート除幕式



除幕式の様子

11月25日、十三湖中の島ブリッジパーク入り口緑地において、十三湖水戸口突堤選奨土木遺産記念プレート除幕式が行われました。昭和21年に完成した十三湖水戸口突堤は、幾度の水戸口閉塞による浸水被害を解消し、岩木川の治水と津軽平野の発展の礎となり、昨年の9月に選奨土木遺産に認定されました。式では、相内青年団の相内虫送り囃子演奏のほか、市浦小学校の奈良巧太朗さん（6年生）、秋田谷百香さん（6年生）がテープカットに参加しました。この記念プレートには、市浦小学校65人の児童の皆さんがふるさと市浦をテーマにそれぞれの思いを書いた津軽金山焼のタイルが張られています。

みんなの思いが届くように



りんご磨きをする児童の皆さん

平成29年7月に発生した九州豪雨で被災した福岡県東峰村の東峰学園に東峰小学校（松山貢校長）の児童の皆さんが支援活動を行いました。

11月20日、同小学校において児童121名は被災地へ送るビデオレター・メッセージの木を作成し、また保護者の方やこども園長橋等から寄贈された被災地へ送るりんごを児童の皆さんが手分けして磨いた後、箱詰め作業を行いました。児童代表の言葉を述べた宮崎竜門さん（6年生）は、「一つひとつ思いを込めて作業しました。この活動で少しでも、元気になってほしいです」と語りました。りんご29箱は、東峰小学校から、陸送で被災地の東峰学園に届けられました。

ぬくもり乗せていざ出発



一番列車のセレモニーの様子

12月1日、冬の風物詩「ストーブ列車」の運行が始まりました。厳しい寒さの中、津軽鉄道五所川原駅構内で行われたセレモニーでは、澤田長二郎社長が「今年で88年を迎えた津軽鉄道は、転車台の復活や乗客数1億人達成など節目の年となりました。今後も皆さんに楽しんでもらえるよう各種イベントを考えていきたい」と述べました。列車には、台湾からのツアー客を含む約100人が乗車し、だるまストーブのぬくもりを感じながら、するめや飲み物を堪能。津軽三味線の演奏や津軽鉄道イメージキャラクター「つてっちー」に見送られ、一番列車は出発しました。ストーブ列車は、3月31日まで運行されます。

融雪溝をご利用の皆さんへ

過年度、市外において融雪溝に転落し、死亡事例があったことや、限られた資源で効率的な融雪を行うためにも、次のことに注意してご利用ください。

- ▷火災・水害時や融雪構内の凍結等で水が流れていない場合には投雪しない。
- ▷近隣で協力し、車道脇の雪を投げ道路をひろく、見通しをよくする（投雪作業中は通行車両に注意する）。

- ▷投雪口に子どもが近寄らないようにする。
- ▷雪の塊は砕いて投雪する（雪きり網は外さない）。
- ▷投雪口の雪を排除してからふたを閉め、ふた・取手が浮き上がっていないか確認する。
- ▷ふたを開けやすくするために角材やパイプを挟むことは、通行する際に大変危険なため絶対にやめる。

問 土木課 内線2612